

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 法学部資料室の図書・雑誌の収納方法およびレイアウトの改善をする。また開室時間の延長を検討する。	→「法学部資料室の図書・雑誌の収納方法およびレイアウトの改善状況(新たに確保できたスペースの広さ)および開室時間の延長の有無」	C	C			
2. TAの採用数を現在よりも増やして学生の多様な要求に対応できるようにする。	→「前期課程大学院生からのTA採用数」	D	C			
3. 教材作成、試験問題作成用の録音ブースを設置することで学生の外国語運用能力の育成をはかる。	→「録音ブース設置の有無」	D	B			
4. 学部単位の会議数および会議所要時間を現在より削減して研究時間を確保する。とくに長時間にわたる教授会は回数の削減とともに2時間以内に終了できるようにする。	→「会議数、会議時間の削減状況」	D	D			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 (説明) 1. 2010年度から、資料室の閉室時間にはカードキーを利用することによって、教員・院生ともすべての書庫を24時間使えることになった。また収納スペースについては、データベースで閲覧可能なもののうち一部を箱詰めし書庫の壁面に保管すること、また退任された先生方の返還図書を図書館や他学部図書室に所蔵してもらうことで、スペースを確保する努力をしているが、いまだ十分な収納スペースは確保できていない。 2. TAは大学院後期課程の院生、大学院研究員、研究科研究員から採用しており、2008年度の4名から、2009年度9名、2010年度10名と採用数は増加しており、2010年度からは学部学生に対する学習相談の仕事も担当している。しかし、いまだ大学院前期課程からの採用は行っていない。 3. 録音ブースについては、まだ設置されていないが、教材開発室内にブースを設置すること、2011年夏休み中に工事を行うことが決定している。 4. 教授会・研究科委員会を中心として会議数・会議時間を減らす努力をしているが、2010年度はカリキュラム改革関連の会議数が増加し、会議回数・時間ともに削減することができなかった。
☆	その他

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【法学部】			単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	人	13	24	14	12	10	
		実験実習指導補佐・教務補佐	人	3	3	3	3	3	
		授業補佐	人	0	0	0	0	0	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	12.4	12.4	13.8	18.0	17.4	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	10.9	10.9	14.2	15.0	18.0	
		講師	時間	11.0	11.0	—	—	—	
		助教	時間	—	—	—	—	—	

(その他の指標データ)

専任教員の研究費(実績)【大学基礎データ】

専任の研究旅費【大学基礎データ】

学内共同研究費【大学基礎データ】

教員研究費内訳【大学基礎データ】

科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】

学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】

外部資金等導入状況【基本的な指標データ】

教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】

留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	1. カードキーを導入することによって、資料室の閉室時間でも教員・院生ともすべての書庫を24時間使えることになった。 2. TAは2008年度の4名から2010年度10名と採用数は増加しており、2010年度からは学部学生に対する学習相談の仕事も担当している。 3. 教材開発室内に教材作成、試験問題作成用の録音ブースを設置することが既に決まり、2011年夏休み中に工事を行うことも決定されている。
	その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	1. いまだ十分に確保できていない収納スペースについては、カレント雑誌を図書同様に書架に建てて配架する、また可動式書架が採用されていない「カレント室」と「洋雑誌R-Z」も可動式書架にするなど、配架スペースを増やす方法を検討する。ただし、より根本的な解決方法として、雑誌の電子化や図書館と重複する文献の取扱い、新たな書庫スペースの確保についても検討していくことが必要である。 2. 大学院前期課程からもTA採用を行う。 3. 2011年夏休み中の工事予定を確実に実施する。
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	4. 2010年度はカリキュラム改革関連の会議数が増加し、会議回数・時間ともに削減することができなかったが、引き続き、削減する必要がある。また、教授・准教授とも、担当時間数が増加傾向にあるので、担当時間数の改善が必要である。
	その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	まず会議回数・会議時間を毎年集計・比較し、どの会議の回数や時間数がどのような理由で増加しているのかという現状把握・現状分析を行う。また現在進行中のカリキュラム改革においては、少なくとも授業担当時間の増加を回避する。
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○教育研究等環境の整備については、問題点が明確に認識され意欲的に取り組まれています。会議回数、会議時間の削減についても積極的に取り組むことが求められます。

【学内委員】

○録音ブースの設置（教材作成環境の整備）やTAの採用など着実に進展していることは評価できます。

○会議に係る時間の減少に向けて現状把握と分析を行うこととしていますが、早急に取り組むことが求められます。

○担当授業時間数が増加傾向にあり、カリキュラム改革において少なくとも担当授業時間の増加を回避することとしていますが、法学部は教授・准教授の担当授業時間が二番目に多くなっています。担当授業時間数の増加を回避するだけでなく、時間数の短縮化に向けた計画的な取り組みが求められます。そのためには、2010年度の学内第三者評価でも提案されていましたが、改善を評価目標に加えることはできないのでしょうか。

○各目標に取り組まれており、それらの現状説明をされていますが、教育研究環境、条件について、その他の記述はありませんか。要素や大学基準協会の留意事項などを参考にしてください。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・現在、設定されている評価目標で十分ということであれば不要ですが、法学部は担当授業時間の平均が、教授・准教授ともに全学でもっとも多い（大学基礎データ22表）ので、その改善を評価目標に加えることもありうると思います。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 「次年度に向けた方策」に、「また専任教員の担当授業時間数が多い原因（非常勤教員率の低さなど）について調査し、学部として改善できる点、それをこえる点について明確にする。」を追加。